

618号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県西部家畜保健衛生所

2020.11.10

☆みんなで食べよう！安全でおいしい「とやまポーク」～越中とやま食の王国フェスタでPR～	1		
☆香川県で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜を確認 ☆黒部市で簡易放牧終牧 ☆豚の防疫情報	2	☆検査室レポート ☆冬期のウイルス性疾病に注意！	5
	3	☆防疫情報	6
	4	☆祝 谷口一男さん黄綬褒章受章 ☆祝 畔田正一さん富山県功労表彰受彰 ☆お知らせ	

## みんなで食べよう！安全でおいしい「とやまポーク」

### ～越中とやま食の王国フェスタでPR～



#### パネル展示で「とやまポーク」の安全性をPR

10月31日（土）、11月1日（日）に富山産業展示館（テクノドーム）で開催された「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」で、消費者に「とやまポーク」の安全性をPRしました。

パネルや映像で、養豚農家が飼養衛生管理を徹底しCSF（豚熱）等の病気を防いでいること、流通している豚肉は全て検査を行っており安全であること等を紹介しました。

この取り組みにより、県民の皆さんがより一層安心して「とやまポーク」を口にする機会が増えることを期待しています。

なお、来年1月にも同様のPRを行う予定です。

（農産食品課食品安全係 槻尾主任）

# 香川県で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜を確認

11月5日、香川県三豊市で約33万羽の採卵鶏を飼養している養鶏場で死亡鶏の増加が確認され、検査を実施したところ、H5亜型の高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の疑似患畜であることが確認されました。国内の養鶏場での発生は、平成30年1月に香川県の養鶏場でH5N6亜型の発生以来となります。また野鳥においては、本年10月24日に北海道紋別市で採取された野鳥糞便から約2年半ぶりにH5N8亜型のHPAIウイルスが検出されています。

さらに韓国では、国内同様過去2シーズン家きんや野鳥からHPAIウイルスの検出事例はありませんでしたが、本年10月25日に野鳥糞便より2年8カ月ぶりにHPAIウイルスが検出されています。

以上の状況を踏まえ、養鶏農家の皆様においては衛生対策を徹底し、本病の侵入防止対策の強化に努めてください。

## 〈予防対策のポイント〉

### ① 人・物・車両によるウイルスの持ち込み防止

・衛生管理区域や家きん舎の出入口では、水洗で有機物を除去した後  
に消毒しましょう。鶏舎間における交差汚染の防止にも努めましょ  
う。

※衛生管理区域出入口と家きん舎出入口での2段階で衛生対策を徹  
底することで病原体の侵入リスクを大幅に低減することができます。



(出典：農林水産省HP)

### ② 野生動物対策

・防鳥ネットや壁に破損箇所や隙間がある場合は、早急に修繕を行いましょ  
う。また防鳥ネットの網目  
の大きさが2cmより小さいことを確認してください。

・家きん舎周囲の清掃、整理・整頓を徹底することや不要な資材は処分する  
など、ねずみ等の野生動物の  
隠れ場所を無くしましょう。

※上記に加えて周辺に水辺のある農場では、野鳥を寄せ付けない忌避テ  
ープを張る、季節を限定して水  
を抜くなどの取組みが効果的です。

養鶏農家の皆さまにおかれましては、毎日の家きんの健康観察で異状を見  
つけた場合には、ただちに  
最寄りの家畜保健衛生所に連絡するようお願いいたします。

(東部家保防疫課 笹原主任)

## 黒部市で簡易放牧終牧

今年度も県内各地で6月以降順次始まった簡易放牧が冬の訪れとともに次  
々と終牧を迎えています。  
東部家保管内では6月21日に黒部市の阿古屋野地区と内山地区でそれぞ  
れ2頭の放牧経験ゆたかな妊  
娠牛が放たれましたが、10月8日に阿古屋野地区、22日に内山地区で関  
係者が集まる中無事終牧を迎え、立山町の畜産農家の牛舎に帰っていき  
ました。

本取組みは、耕作放棄地等における景観保全や獣害対策を目的に実施さ  
れていますが、この2地区が長年放牧を継続できているのは放牧牛のお世  
話をしてくださる地元の方々や関係機関の協力があってのものだと思わ  
れます。



牛を見送る地元の方々はどこか寂しそうに感じられましたが、来年度も元  
気な牛たちの姿が見られる  
ことを楽しみにしております。

(東部家保環境課 中村主任)

# 豚の防疫情報

## 1 豚熱 (CSF) 発生事例に学ぶ発生予防対策 (第 13 回拡大 CSF 調査チーム検討会より)

令和 2 年 9 月に確認された群馬県での CSF 発生事例について、疫学調査チームの検討が行われ、発生予防対策の提言が行われました。

群馬県は本県同様に CSF ワクチン接種推奨地域に指定されており、発生農場においても CSF ワクチン接種が行われていました。本事例は、疫学調査の結果、離乳豚エリアに最初にウイルスが侵入し、下痢や死亡が生じたものと推察されています。

CSF ワクチンは、接種しても 100%免疫が付与されるわけではなく、ワクチン接種農場での免疫付与状況確認検査でも免疫を獲得していない豚が一定程度認められています。特に、離乳豚は、母豚の CSF 抗体価によって免疫の獲得にバラツキが出る可能性があり、適切な飼養衛生管理が行われない場合には感染リスクが高まることが考えられます。

今回の CSF の発生予防対策の提言を踏まえ、養豚農家では今一度、以下を確認し、発生予防対策の徹底をお願いします。

### 1) 発生農場で確認された飼養衛生管理の不備

本農場では、農場や豚舎へウイルスの侵入を招く以下のような不備が確認されています。

- ・衛生管理区域内に消毒等ができない自宅が含まれていた。
- ・衛生管理区域に入る車両の消毒が不十分であった。
- ・防護柵は設置されていたが、周囲の除草が行われていなかった。
- ・豚舎ごとの長靴や作業着の交換が不十分であった。
- ・多くの豚舎や堆肥舎に防鳥ネットが設置されていなかった。
- ・衛生管理区域の内外に糞尿が堆積しており、消毒や除草が不十分であった。
- ・特定症状(本事例では、離乳豚での下痢や死亡頭数の増加)確認時の通報の遅れが認められた。

### 2) 疫学調査結果を基にした発生予防対策 (提言)

#### (1) 毎日の健康観察と早期通報・相談

CSF ワクチン接種農場においても全ての豚に免疫が付与されているわけではないため、死亡頭数の増加等の CSF を疑う症状 (いわゆる特定症状) が認められた場合は、遅滞なく家畜保健衛生所へ通報してください。

豚の健康状態が通常と異なる等の理由で接種の可否を検討する場合は、獣医師と十分に検討いただくとともに、延期する場合は、飼養管理の順番を工夫するなど当該豚の感染防止対策を徹底してください。

#### (2) ワクチン接種農場における飼養衛生管理

ワクチン接種推奨地域は、飼養豚への感染リスクが高い地域が設定されています。そのため、適切な時期のワクチン接種に加え、ウイルスの農場への侵入防止対策も改めて徹底してください。

#### (3) 適正な飼養管理の徹底

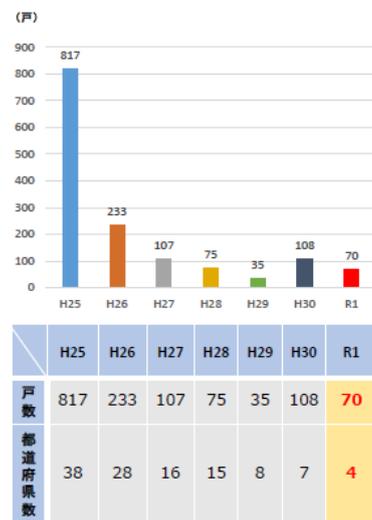
改正された新たな飼養衛生管理基準を改めて確認し、CSF を含めた越境性動物疾病の発生予防に努めてください。

## 2 豚流行性下痢 (PED) の発生予防対策の徹底

PED は、平成 25 年 10 月に国内では 7 年ぶりに発生が確認され、平成 25 年 10 月から平成 26 年 8 月までに 38 道県 817 農場と全国的な発生が確認されました。本県でも、平成 26 年 4 月に 3 農場において確認され、発生農場では離乳豚の死亡率の著しい上昇など大きな被害がありました。県内での本病は、同年 10 月末までにすべて沈静化が確認され、それ以降の発生は認められていません。

しかし、国内では依然として、気温の低下する冬季を中心に例年発生が認められており、令和元年シーズン（R 1.9～R 2.8）も4県70農場で発生が確認されており注意が必要です。養豚農家では引き続き、改正された飼養衛生管理基準に基づき、衛生的な管理や消毒等の侵入防止対策を徹底してください。PED 発生時の被害低減としては、本病のワクチン接種も有効な手段です。平時からの使用も状況に応じて検討ください。また、日常の飼養豚の健康観察を丁寧に行い、万一、哺乳豚のうち半数以上が水様性下痢、嘔吐又は死亡するなど本病を疑う症状が認められた場合は、直ちに家畜保健衛生所に通報をお願いします。

（右図：各シーズン（9月～翌年8月）の PED 発生状況（出典：農林水産省HP））



### 3 韓国で1年ぶりとなるアフリカ豚熱（ASF）の発生を養豚場で確認（15、16例目）

ASF は、平成 30 年 9 月、中国においてアジアで初めて発生が確認されて以降、急激に感染が拡大し、現在アジア 13 개국で発生が確認されています。

韓国では、令和元年 9 月 17 日に北朝鮮との国境沿いの韓国京畿道坡州市の養豚場で初めて本病の発生が確認され、同年 10 月上旬までに計 14 事例の発生が確認されましたが、その後は続発が確認されていませんでした。

しかし、令和 2 年 10 月 9 日に江原道の養豚場において 1 年ぶりとなる発生が確認されました（15 例目）。本事例は、と畜場に出荷された母豚 8 頭中 3 頭が死亡し、本母豚の検体を検査したところ、ASF であることが確認されています。発生確認を受け、韓国では本養豚場から半径 10 km 圏内にある養豚場 2 戸（計 1,525 頭）の予防的殺処分が行われました。なお、予防的殺処分対象農場 2 戸の内 1 戸においても検査の結果、ASF 陽性が確認されています（16 例目）。

（右図：韓国における ASF の発生状況（出典：農林水産省HP））



### 4 羽田空港(マニラ→東京)到着の旅客携行品より ASF ウイルス検出

令和 2 年 8 月 31 日にフィリピンのマニラ空港から出発し、羽田空港に到着した旅客により持ち込まれた豚肉製品（ソーセージ 2.2 kg）について、農林水産省動物検疫所が摘発し、ASF の PCR 検査を実施したところ、89 例目となる ASF ウイルスの遺伝子が確認されました。さらに、本豚肉製品について、農研機構 動物衛生研究部門においてウイルス分離を行ったところ、3 例目となる感染性のあるウイルスの分離が確認されました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により国際線の旅客数は激減しておりますが、今後、徐々に入国規制緩和が進み人の往来が回復することも見込まれることから、海外からの越境性動物疾病侵入に十分注意が必要です。

技能実習生等の外国人の従業員受け入れを行っている畜産農家においては、改めて、母国から肉製品が郵送されることがないように注意をお願いします。また、従業員が受け取っている国際郵便物等の中に肉製品が含まれている疑いがあった場合は、最寄りの家畜保健衛生所又は動物検疫所（農林水産省動物検疫所 所在地一覧 <https://www.maff.go.jp/aqs/sosiki/address.html>）にご連絡ください。

（東部家保防疫課 水木係長）

# 検査室レポート

検査実施状況

(令和2年5月23日～令和2年10月28日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	2	2	2
		牛伝染性リンパ腫(届出伝染病)	2	2	2
		牛RSウイルス病	1	6	18
		牛トロウイルス病	1	6	12
		牛ロタウイルス病	1	1	1
		出血性壊死性盲腸炎	1	1	1
		出血性腸炎	1	1	1
		その他	224	461	846
	肉用牛	牛パストツレラ症	2	2	2
		牛パストツレラ症と牛マイコプラズマ肺炎	2	2	2
		牛ロタウイルス病	2	2	2
		脂肪壊死症	2	2	2
		牛コロナウイルス病	1	7	7
		牛伝染性リンパ腫(届出伝染病)	1	1	1
		牛マイコプラズマ肺炎	1	1	1
		牛マンヘミア症	1	1	1
		大脳皮質壊死症	1	1	1
		その他	63	66	69
	豚	豚大腸菌症と豚レンサ球菌症	1	1	1
		豚増殖性腸炎と豚パストツレラ症	1	1	1
		サルモネラ症(豚)(届出伝染病)	1	1	1
ヘモフィルス・パラスイス感染症		1	1	1	
その他		4	3	12	
鶏	鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と鶏コクシジウム病	2	3	3	
	鶏の豚丹毒菌感染症	1	4	4	
	ロイコチトゾーン症(届出伝染病)	1	3	3	
	マレック病(届出伝染病)	1	1	1	
	その他	7	34	43	
緬・山羊	山羊のコクシジウム病	2	2	2	
	山羊の線虫症	1	2	2	
	山羊のパストツレラ症	1	1	1	
	その他	21	41	48	
馬	フレグモーネ	1	1	1	
	リンパ肉腫	1	1	1	
	その他	5	5	5	
一般検査	牛・豚・鶏・山羊		261	2,188	3,572
鳥インフルエンザ検査		分離・抗体検査	29	290	580
BSE検査	牛	エライザ検査	21	21	21
TSE検査	山羊等	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査 (農研機構 動物衛生研究部門に依頼)	11	11	11
CSF(豚熱)検査	野生いのしし等	PCR検査	20	224	229
合計			703	3,404	5,514

## 冬期のウイルス性疾病に注意!

昨年10月～12月分の検査室レポート(本誌608号)を見返してみますと、牛コロナウイルス病3戸15頭、牛ロタウイルス病1戸3頭でした。2月と3月にも牛ロタウイルス病やその複合感染が確認されています。今年も10月に入り牛コロナウイルス病が1戸7頭で確認されるなど、寒さに比例してウイルス性の呼吸器病や下痢症の発生増加が危惧されます。飼養衛生管理基準の遵守はもちろんのこと、いつも以上に丁寧に観察し、寒暖差の激しい時期は畜舎の温度調節をこまめに行いましょう。また、獣医師と相談し、適期にワクチンを接種しましょう。いつも聞いていること、もうわかっていることかもしれませんが、それができているのか、もう一度確認してみてください。

# 防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生 高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）（11月5日現在）

発生日	発生場所	畜種・用途	飼養羽数	血清型	備考
11月5日	香川県三豊市	鶏・採卵	約33万羽	H5亜型	2ページ参照

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
豚丹毒（届出伝染病）	豚	9月28日	1	1	と畜場発見
		10月21日	1	1	と畜場発見
牛伝染性リンパ腫（届出伝染病）	牛	10月5日	1	1	と畜場発見
牛コロナウイルス病	牛	10月5日	1	7	
鶏の豚丹毒菌感染症	鶏	10月13日	1	4	
牛コクシジウム病	牛	10月15日	1	2	
牛パストツレラ症	牛	10月22日	1	1	

## 祝 谷口一男さん黄綬褒章受章

11月2日、令和2年度秋の褒章受章者が発表され、入善町の谷口一男さんが農業、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方に授与される黄綬褒章を受章されました。谷口さんは県肉用牛協会長として県内の肉牛農家の先導に手腕を発揮されたほか、県農政審議会委員として農業の持続的な発展や農村振興に大いに寄与されました。また、全国肉用牛協会理事や全国肉用牛振興基金協会監事を務められるなど、肉用牛の振興施策の充実強化にご尽力されました。心よりお祝い申し上げます。（東部家保環境課 西井課長）



## 祝 畔田正一さん富山県功労表彰受彰

県の発展に著しく寄与した人に贈られる富山県功労表彰の今年度の受彰者が決定し、畜産関係では富山市の畔田正一さんが受彰されました。畔田さんは県乳牛協会会長や県乳用牛群能力検定組合長を歴任し、（一社）日本ホルスタイン登録協会理事も務められました。後継者育成にも尽力されており、農業高校からの就農を受け入れて雇用を創出するなど、酪農の魅力を若い世代に伝え、富山県の酪農の発展に寄与されました。11月2日に県民会館において表彰式が執り行われ、知事から表彰状が授与されました。おめでとうございます。（東部家保環境課 西井課長）



## お知らせ

催事等	期日	場所
令和2年度富山県畜産共進会（和子牛の部） 北陸三県和牛子牛市場	11月20日	北陸三県家畜市場（金沢市）
令和2年度富山県畜産共進会（牛枝肉の部）	11月27日	（株）富山食肉総合センター
東部・西部地域畜産経営技術推進指導協議会 合同研修会『畜産の臭気対策について』	12月17日 14:00～15:30	富山県民共生センター サンフォルテ 307・308号研修室

## 編集後記

国内の養鶏場でHPAIの疑似患畜が確認されました。養鶏農家の皆さんも気の休まらない日々かと思いますが、お互い笑顔で春を迎えられますように。

発行所	富山県東部家畜保健衛生所	http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536	富山市水橋金尾新4-6	電話(076)479-1106 FAX(076)479-1140
編集者	西井 純（富山県東部家畜保健衛生所）	

